

初代から4代に至る作品を総合的に展覧する初の展覧会

創業百二十年記念

龍村平藏「時」を織る。

会期：2013年4月25日(木)～5月6日(月) 会場：日本橋高島屋 8階ホール
 会期：2013年5月24日(金)～6月4日(火) 会場：横浜高島屋 8階ギャラリー
 入場料：一般800円 大学・高校生600円 中学生以下無料
 主催：朝日新聞社 協力：龍村美術織物

京都の老舗、進化し続ける龍村美術織物。きらびやかな錦の帯、正倉院や法隆寺に伝わる古代裂の復元、祇園祭などの祭りの山鉾などに掛けられる懸装品などで、今も染織分野の最高峰であり続け、高い技術を駆使した独創的な文様の創作織物でも知られます。

数々の特許を取り、近代染織史に大きな足跡を残した、初代龍村平藏から4代まで、各時代の文様の移り変わりや技術を読み解きます。創業120年を記念し、帯や打掛、陣羽織などの代表作を交えて龍村美術織物の華麗な美を展開します。

初代の業績を集中的に紹介した大回顧展は、これまでもありましたが、当代(4代)に至るまでの名品をまとめた形で紹介する展覧会は、今回が初めてです。また、高島屋と龍村が長きに渡り、ともに歩んできた道のりをご紹介し、新たな見応えを提供する貴重な展覧会となります。

*文中の「龍村」の「龍」は正しくは「」となります



鸚哥瑞華文綴錦

< 展示構成 >

- | | | | |
|------------|-------------|-------------|---------|
| 導入 | 丸帯、打掛、陣羽織 等 | | |
| 織の技術 | 1. 復元の世界 | 2. 新技術 | 懸装品 等 |
| 文様 | 1. 海外へのあこがれ | 2. 過去へのあこがれ | 3. 異種配合 |
| 高島屋と龍村の関わり | 出会いから現在まで | | |

約300点を展示(会場により若干内容が変わります)

(株)高島屋 広報・PR室 日本橋店担当 中村・桑原・三尾 03-3246-5534(広報直通)
 横浜店担当 吉岡・尾形 045-313-1570(＃)

媒体でご紹介くださる際は、日本橋高島屋 03-3211-4111、横浜高島屋 045-311-5111

展開内容 (予定)

第1章 導入

代表的な丸帯、打掛、陣羽織を一堂に展示する、きらびやかな龍村平藏の世界への導入です。龍村織物では、新しい帯を作るたびにお太鼓の部分を「試し織り」しますが、過去から現在までのこれを、一堂に展示し、帯の一大アーカイブとして紹介いたします。



左: 花鳥文金唐革錦



右: 縹織瑞兆華禽錦

第2章 織の技術

初代平藏は、大正末期に当時の帝室博物館より正倉院御物の研究、復元を委嘱されて以来、さまざまな古代織物の復元を手がけてきました。数多くの、そして長年にわたる復元・研究により、多くの技術を生み出してきたのです。本展では、法隆寺の古代裂や名物裂の復元作品、また平藏が発明した織技を解説しながら、その多様性・独自性を紹介します。

・復元の世界



正倉院御物

・新技術



法隆寺御物

第3章 文様

初代から4代に至る、龍村平藏の「文様」の多様性・独自性を解き明かします。初代、2代による古代織物の研究復元と創造、3代の世界観シルクロード、4代が得意とする和蘭や南蛮など、個性豊かな歴代による文様への視点を一堂に展観します。

海外へのあこがれ

・シルクロード



『漢錦萬歳文』

・北欧



『デンマークの人形』

・和蘭・南蛮



『白象陶彩文』

過去へのあこがれ

正倉院、法隆寺、名物裂など古典から学び、新たに発展させた文様の数々の作品を紹介。

・正倉院



駱駝彈奏文

・法隆寺



円文白虎錦

*名物裂



人形手系入錦

*名物裂

日明貿易や南蛮貿易などによって船載され茶道の世界に広まった織物の呼称。

異種配合

―見和装と相いれないと思われるモチーフを見事に帯柄にする、異種配合の情趣がある作品。鹿の子絞りや漆芸の味わいを織で表現した初代から続く独自の世界観。ジャンルを異にする工芸品である蒔絵、堆朱、陶器、螺鈿、切子などをモチーフにした作品を紹介。いずれも、その質感や風情、深み、までを見事に表現したものです。

・蒔絵

・切り子

* 堆朱・堆黒



第4章 高島屋との関わり

龍村美術織物と高島屋の関係は非常に古く、とりわけ初代の龍村平藏とは明治中期、高島屋が心齋橋に進出したころ、平藏が高島屋で呉服の勉強を始めたという時代からの付き合いであり、節目節目に龍村の展覧会を高島屋にて開催、「龍村錦帯」を高島屋オリジナルブランドとして独占販売。また初代平藏は高島屋が主催する「上品会」(1936年～現在)に創会当時から同人として出品を続け、会の発展と日本の染織文化の向上に大きく貢献しました。戦争で中断を余儀なくされた後の再開時に初代平藏が記述した「上品会素旨」は不動の精神として、会の鑑審査の基準となっています。この章では、「呉服の高島屋」が誇る「上品会」のカタログである写影帖のアーカイブを展示いたします。

* 上品会(じょうばんかい): 織・染、繡(ぬい)、縷(しばり)、績(かすり)の染織五芸を競う会